

### 3. 水害の状況

#### 3. 1 過去の被害状況

西淀川区は大阪湾沿岸部に位置するため、洪水による被害に加え、室戸台風をはじめとする高潮被害、地震による津波被害を度々受けてきました。特に、低地であるため高潮による被害が甚大でした。

なお、現在は、河口から旧猪名川付近まで、防潮堤ライン（河口部：OP+8.10m）が昭和47年に概ね完成しています。しかしながら、平成16年の台風18号接近の際に鉄扉を締める事態に至る等、今後も水害発生の危険性があり、引き続き、浚渫などの整備を行っていく必要があります。

表-3.1.1 西淀川区に関わる第二室戸台風（昭和36年）までの洪水・高潮・津波被害記録

発生年月日	西暦	災害概要
天平勝宝 5. 10. 9	753	摂津大風海溢漂流 560 余人（続日本記） 発生要因：台風による高潮
弘仁 8. 8. 20～ 8. 9. 18	817	潮暴溢漂流 220 人（大日本史） 発生要因：地震による津波
仁和 3. 8. 26	887	五畿七道諸国大地震海勃起、溺死者無数摂津最甚（大日本史） 発生要因：地震による津波
正平 15. 9. 13	1360	摂津国難波浦海溢死者数百名（大日本史） 発生要因：地震による津波
文明 7. 9. 15	1475	京都大風難波浦及尼崎大潮死亡千余命（分類年代表） 発生要因：台風による高潮
弘治 3. 9. 28	1557	台風攝津播磨潮溢死亡者多（細川両家記） 発生要因：台風による高潮
寛文 10. 11. 5	1670	大阪台風雨木津川口、四宮川口等潮水溢、123 人溺死 海辺の民家全流出（分類本本朝年代記） 発生要因：地震による津波
寛永 4. 10. 28	1707	諸国大地震海、大阪殊甚死者 3 万余人（年代略記） 発生要因：台風による高潮
宝暦 13. 10. 9	1763	大阪船舶損害多（泰平年表） 発生要因：台風による高潮
安永 3. 7. 31	1774	川口の船舶覆没、溺死 1, 200 余人（続日本年代一覧） 発生要因：台風による高潮
安政 1. 11. 5	1854	全国強地震海 起木津川、安治川、心齋橋通も巨船漂流死者 2, 000 余人、 落橋 19 ヶ所、潰家 203（三災録） 発生要因：地震による津波
明治元年. 5. 14	1867	淫雨（梅雨）のため、淀川決壊。加島村・御幣島村・福村・大和田村・佃村・矢倉新田・稗島・蒲田新田・百島新田の堤防決壊。7. 14 再度出水。
明治 4 年. 5. 18	1871	高潮。安治川・中津川河口部堤防決壊。矢倉新田、布屋新田水没。
明治 18 年 6 月下旬	1885	「枚方切れ」：淀川左岸地域の大洪水。被災は七月初旬におよぶ。

出典：西淀川区史 平成 8 年 3 月 15 日発行 西淀川区制七十周年記念事業実行委員会  
西大阪の河川 昭和 57 年 3 月 西大阪治水事務所工務課企画課

表-3.1.1 西大阪地域の第二室戸台風（昭和36年）までの洪水・高潮・津波被害記録（つづき）

発生年月日	西暦	災害概要
明治 22 年 8 月 13 日	1889	淀川洪水
明治 24 年 8 月 16 日	1891	高潮。新田の堤防決壊。
明治 29 年 7 月 21 日	1896	神崎川・淀川洪水。稗島・千船・歌島村に被害。
明治 29 年 9 月 8 日	1896	神崎川出水。御幣島・歌島・加島・稗島など浸水。
明治 36 年 9 月 8 日	1903	神崎川氾濫。加島堤防決壊。
大正 6 年 10 月 1 日	1917	「大塚切れ」：淀川大洪水。西成郡内広域にわたり浸水。 区域全体が泥海と化し、福村で地面を見ることが出来たのは、約一ヶ月後。
昭和 9 年 9 月 21 日	1934	「室戸台風」：高潮襲来。区内全域浸水。 西淀川区被害 死者・行方不明者 243 人、重軽傷 505 人 流失・全半壊 516 戸、床上浸水 9, 317 戸（淀川南岸の一部含む）
昭和 25 年 9 月 3 日	1950	「ジェーン台風」：高潮襲来。区内全域浸水。 西淀川区被害 死者・行方不明者 58 人、重軽傷者 1, 049 人、罹災者数 543, 095 人 全壊 198 戸、流出 143 戸、半壊 8, 445 戸、床上浸水 6, 130 戸、床下浸水 2, 614 戸
昭和 28 年 9 月 25 日	1953	「台風 13 号」：淀川洪水。上流京都府下の支川決壊。防災活動によりかろうじて堤防決壊を免れる。
昭和 36 年 9 月 16 日	1961	「第二室戸台風」：高潮で神崎川氾濫。大和田・出来島・御幣島地区など床上浸水。 大阪市全体被害 死者 6 人、負傷者 682 人 流失・全半壊 1, 726 戸、床上浸水 51, 500 戸、床下浸水 54, 000 戸

出典：西淀川区史 平成 8 年 3 月 15 日発行 西淀川区制七十周年記念事業実行委員会  
西大阪の河川 昭和 57 年 3 月 西大阪治水事務所工務課企画課



大塚の堤防決壊箇所（大正 6 年）

出典：「西淀川区史」平成 8 年 3 月 15 日発行  
西淀川区制七十周年記念事業実行委員会

表-3.1.2 大阪湾において発生した主な高潮の記録(昭和年代以降)

発生年月日	台風名	大阪の 低気圧 (mb)	大阪の平均最大風速		大阪の 最大瞬間 風速 (m/s)	大阪の 総降雨量 (mm)	大阪の 高潮潮位 (O. P. m)	大阪の 潮位最大 偏差 (m)
			速度 (m/s)	風向				
S8.9.4	第3307号	986.1	18.6	WSW	-	5.9	2.58	-
S8.10.20	屋島丸台風	985.6	13.0	S	-	71.7	2.64	-
<b>S9.9.21</b>	<b>室戸台風</b>	<b>954.4</b>	<b>欠測 (48.4)</b>	<b>S</b>	<b>60.0</b>	<b>22.3</b>	<b>4.50</b>	<b>2.92</b>
S12.9.11	第3706号	984.8	14.5	SW	22.8	44.5	2.70	-
S13.9.5	第3805号	984.8	13.2	SE	19.0	18.9	2.66	-
S19.9.17	第4416号	986.0	18.6	SW	21.8	53.3	2.80	-
S20.9.18	枕崎台風	981.1	19.0	S	22.5	3.2	3.20	-
<b>S25.9.3</b>	<b>ジーン台風</b>	<b>971.3</b>	<b>28.1</b>	<b>S</b>	<b>44.7</b>	<b>64.7</b>	<b>3.85</b>	<b>2.37</b>
S26.10.15	ルス台風	-	15.7	WSW	24.0	3.2	2.95	1.04
S28.9.25	第5313号	977.1	22.0	NNW	28.9	176.1	2.62	0.30
S34.9.26	伊勢湾台風	956.1	28.9	NE	27.4	58.8	2.54	0.83
<b>S36.9.25</b>	<b>第二室戸台風</b>	<b>937.3</b>	<b>33.3</b>	<b>SSE</b>	<b>33.3</b>	<b>44.2</b>	<b>4.12</b>	<b>2.45</b>
S39.9.25	第6420号	-	19.0	SSW	31.7	41.4	3.72	1.83
S40.9.10	第6523号	-	17.3	S	33.1	60.6	3.19	2.16
S47.9.16	第7220号	971.5	23.2	N	-	117.5	2.87	0.90
S50.8.23	第7506号	977.0	18.9	SW	-	114.5	3.24	1.12
S54.9.30	第7916号	972.0	17.6	WNW	-	83.5	3.04	1.34
S58.9.24	台風10号	993.5	7.8	NE	13.1	239.5	3.91	0.59
H11.9.13	台風16,18号	997.9	12.1	SSW	26.8	43.5	4.21	-

太字は、昭和年代の主要3洪水。

出典：

S8～S54：西大阪の河川 昭和57年3月 西大阪治水事務所

S58～H11：気象要覧及び、潮位観測

### 3.2 主要洪水の概要

#### (1) 昭和9年9月洪水(室戸台風)

室戸台風は1934年(昭和9年)9月21日午前5時頃に高知県室戸岬付近に上陸し、西日本を中心に大きな被害を与えました。気圧954.4mb、最大瞬間風速60m、大阪港潮位4.50mを記録しました。

大阪市全域では、死者・行方不明者990人、建物の全半壊・流出4,236戸の甚大なものとなり、この台風被害を契機として、高潮対策事業が本格的に着手されることとなりました。

西淀川区では、死者・行方不明者243人、重軽傷者505人、建物の全半壊・流出516戸、神崎川の氾濫により、中島・西島・百島・布屋・大和田・佃の各町で工場・住宅が全半壊・浸水など多くの被害を受けました。

表-3.2.1 室戸台風による被害

項目		西淀川区	大阪市	備考
建物被害	全半壊・流出	516戸	4,236戸	香薫校 全壊 野里・大和田第一・姫島校 半壊 佃・福・川北・柏里校 大破
	床上浸水	9,317戸	—	淀川南岸の一部を含む
人的被害	死者・行方不明者	243人	990人	
	重軽傷者	505人	—	

出典：西淀川区史 平成8年3月15日発行 西淀川区制七十周年記念事業実行委員会

室戸台風で被災したが流出をまぬがれた民家



室戸台風により破壊された西島町中堤防



出典：「西淀川区史」平成8年3月15日発行

西淀川区制七十周年記念事業実行委員会



(2) 昭和 25 年 9 月洪水（ジェーン台風）

ジェーン台風は、1950年に主に強風により近畿地方や四国地方などに大きな被害を与えました。8月30日に、硫黄島の南西海上で台風28号発生。その後、9月3日10時に徳島県日和佐町（現：美波町）付近に上陸し、台風は淡路島付近を通過、12時頃神戸市垂水区付近に再上陸しました。その後、若狭湾へ抜け、日本海を北東に進み、9月4日4時頃、北海道渡島半島南端に再上陸。台風は北海道を縦断し、オホーツク海へ抜けました。最大中心気圧は940mb、最大風速50m/sの台風でした。

大阪市全域では、死者・行方不明者221人、重軽傷者18,573人、建物の全半壊・流出46,405戸の甚大な被害となりました。このように被害が甚大になった背景として、戦前より始まっていた地盤沈下も要因の一部と考えられます。

西淀川区では、死者・行方不明者58人、重軽傷者1,049人、建物の全半壊・流出8,786戸、佃・出来島・大和田・中島などの各町が浸水し、水が引くまで約1ヶ月半要しました。

表-3.2.2 ジェーン台風による被害

項目		西淀川区	大阪市
建物被害	全壊	198戸	46,405戸
	流出	143戸	
	半壊	8,445戸	
	床上浸水	6,130戸	—
	床下浸水	2,614戸	—
人的被害	死者・行方不明者	58人	221人
	重軽傷者	1,049人	18,573人
	罹災者数	71,992人	—

出典：西淀川区史 平成8年3月15日発行  
西淀川区制七十周年記念事業実行委員会

表-3.2.3 ジェーン台風後の区内排水状況

地区名	水深 (cm)	当初水深 (cm)	排水完了予定
佃島	30	110	9月11日
出来島	50	240	9月18日
大和田	70	150	9月18日
福	30	60	9月14日
姫島	60	110	9月18日
中島町	60	240	9月20日
大野町	50	190	9月14日
西島町	60	240	9月18日

備考) 昭和25年9月8日午前10時現在大阪市調査  
出典：西淀川区史 平成8年3月15日発行  
西淀川区制七十周年記念事業実行委員会



図-3.2.1 ジェーン台風の浸水区域図

出典：大阪湾高潮対策協議会第1回資料 (H19.7)



国道2号

出典：(「近畿水害写真集」(昭和56年10月)  
近畿地方建設局河川部監修

(3) 昭和 36 年 9 月洪水（第二室戸台風）

第2室戸台風は、1961年9月16日、高知県室戸岬に上陸し、主に近畿地方に大きな被害を与えました。室戸台風とほとんど同じ進路を取って紀伊水道を北上し、阪神地方に上陸しました。

9月8日、マーシャル諸島近海で発生し、9月12日に中心気圧888mbまで発達して9月14日に沖縄の南東海上で転向し、9月15日に奄美大島を通過して名瀬で最低海面気圧918.0mbを観測しました。その後、9月16日9時過ぎに室戸岬西方に上陸し、中心気圧925mb、最大風速66.7m/s、最大瞬間風速84.5m/s以上を観測しました。13時過ぎには、兵庫県尼崎市と西宮市の間に再上陸し、日本海沿岸を北北東へ進んでホーツク海で温帯低気圧となりました。

大阪湾の潮位はOP+4.12mに達し、大阪市では、西大阪を中心に、死者6人、負傷者682人、建物の全半壊・流出1,726戸、床上浸水約51,500戸、床下浸水約54,000戸の甚大な被害となりました。

西淀川区では、神崎川が氾濫し、大和田・出来島・御幣島ではほとんどの家屋が床上浸水の被害を受けました。

表-3.2.4 第二室戸台風による被害

項目		大阪市
建物被害	全半壊・流出	1,726戸
	床上浸水	約51,500戸
	床下浸水	約54,000戸
人的被害	死者	6人
	負傷者	682人

出典：西淀川区史 平成8年3月15日発行  
西淀川区制七十周年記念事業実行委員会



図-3.2.2 第二室戸台風の浸水区域図

出典：大阪湾高潮対策協議会第1回資料 (H19.7)



国道2号付近

出典：西淀川区史 平成8年3月15日発行  
西淀川区制七十周年記念事業実行委員会



西淀中学校舎へ避難した人びと



#### 4 地震被害

西淀川区を含む西大阪地域は、太古の昔は海であり、「難波江」とよばれていました。淀川などにより、長い年月をかけ、土砂を堆積させ、いくつかの州ができあがり、「なにわの八十島」を形成、その後「新田開発」と「埋め立て工事」により現在の地形が形成されました。

このように形成された地盤は地震に弱く、平成7年の阪神淡路大震災では、西淀川区においては、人的な被害は無かったものの、液状化により、神崎川堤防などの施設被害が多数発生しました。

大阪府では、これを契機に「地震防災アクションプログラム」を策定し、震度4及び5で不安定な区間を平成22年までに完了させることを当面の目標として、計画的に耐震対策事業を推進しています。

表-4.1 阪神・淡路大震災の被害概要

区分		単位	西淀川区	大阪市全体	適用	
人的被害	死者	人	0	17	平成9年1月31日現在	
	負傷者	人	-	357	平成9年1月31日現在	
家屋被害	全壊	棟数	47	194	平成9年1月31日現在	
		世帯数	54	248		
	半壊	棟数	916	2,145		
		世帯数	1,122	3,110		
	一部損壊	棟数	4,621	17,091		
		世帯数	5,909	21,656		
施設被害	ライフライン	配水管	箇所	74	平成6年3月31日現在（上水道・工業用水道合算値）	
		給水装置	箇所	-	西淀川区は、図-5.1.2参照。	
		電力施設	箇所	-	西淀川区では御幣島変電所が被災。送電設備被害（市内全数：送電線5箇所、配電設備（電柱）439本など）は、西淀川区で多数見られた。	
		ガス管内への流入水による供給停止	戸	1,619	大阪市内の導管の被害箇所数 1,082箇所	
	公共土木施設	下水道施設 下水処理場、抽水所	箇所	-	御第二抽水所、大野下水処理場に被害。その他、下水管の破損、土砂流入が多く見られた。	
		道路	箇所	-	舗装道路の亀裂・陥没・隆起・その他の合算値。	
		橋梁	箇所	7	千船大橋、千北橋、中島小橋、両島橋、城島小橋、城島橋取付高架橋、左門小橋	
	河川施設				西淀川区のみ ・被災箇所数：12箇所 （災害査定件数。防潮堤など被災） ・復旧費用：46億円	西大阪治水事務所 神崎川出張所内資料より

出典：阪神・淡路大震災の記録 大阪市 平成9年3月

西淀川区域 被災状況写真



佃1丁目左門殿川左岸の復旧工事

出典：「西淀川今昔写真集」（西淀川区政70周年記念）  
西淀川区制70周年記念事業実行委員会



図-4.1 配水管被害位置図

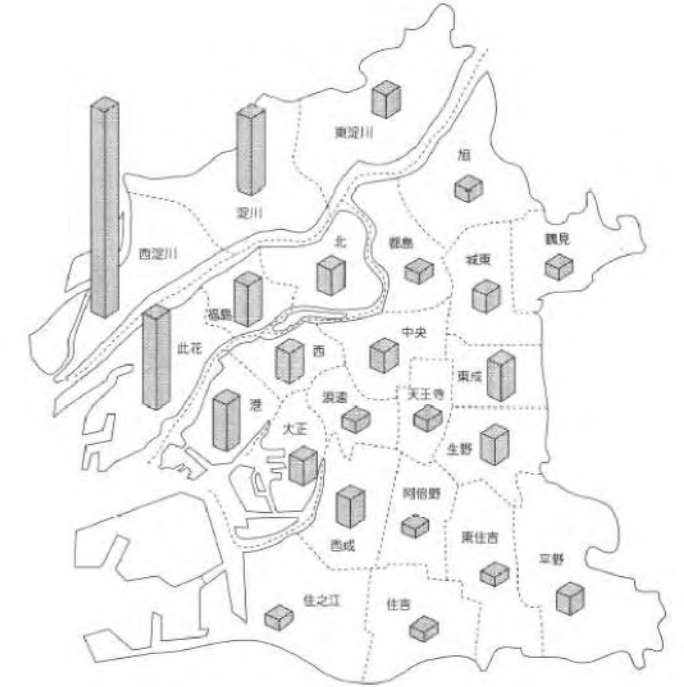


図-4.2 給水装置被害状況図



図-4.3 橋梁被害位置図

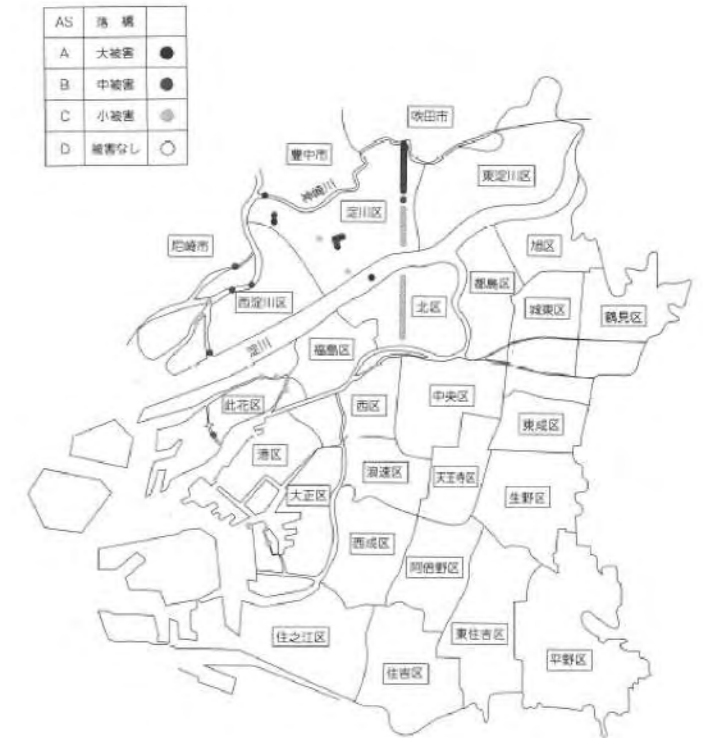


図-4.4 被災橋梁の被害度

図-4.1~4 出典：阪神・淡路大震災の記録 大阪市 平成9年3月



○ 防災船着場

大地震などの災害時において、陸上輸送に代わり、河川を利用した輸送を行うための施設として、「防災船着場」を整備しています。  
 神崎川下流ブロックでは、整備済の「佃防災船着場」と整備中の「西島防災船着場」があります。

	高浜	榎木	三国	佃	(仮)西島 (計画中)
所在地	吹田市	吹田市	大阪市淀川区	大阪市西淀川区	大阪市西淀川区
整備延長	L=259.2m	L=228.8m	L=572.0m	L=58.5m	L=330m
パース数	2	2	3	1	4
対象船舶	50DWT~400 DWT級台船	—	—	—	貨物船 700DWT 50DWT~400DWT 級 台船
広域避難地	中の島公園周辺	アメニティ江坂	新大阪駅北側	佃地区	中島地区 出来島地区
緊急交通路	府道大阪高槻京 都線	国道423号 国道479号	国道176号	国道2号	国道43号 阪神高速湾岸線
整備年度	H9~H15	H13~H14	H14~H15	H12~H16	H17~

## 神崎川を活用した防災ネットワークについて

◆防災船着場の整備目的  
 防災船着場は、大地震などの災害時において、陸上輸送に代わり、河川を利用した緊急物資の輸送と物資の荷役、人員の輸送を円滑に行うために、背後に多くの住民が生活する都市河川に整備するものです。  
 また、災害時のみならず、平常時においても、地域住民にとって身近なまとまりのある河川空間として、水辺に親しむことができ、お祭りやイベントなどでの利用、防災教育、防災訓練の場として利用できるような場を提供するものです。

◆神崎川の防災船着場  
 一級河川神崎川では、西大阪治水事務所が主体となって、合計5箇所の防災船着場が整備されております（一箇所整備中）。  
 神崎川下流左岸（城島橋下流左岸）の船着場は、上流船着場への緊急物資積み替え基地としての機能としても役割を担い、大型の貨物船も接岸できます。



出典：西大阪治水事務所 神崎川出張所 資料